

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士（医学） 氏名 阿部 容子

主査 教授 松野 吉宏
審査担当者 副査 教授 秋田 弘俊
副査 教授 武富 紹信
副査 教授 山下 啓子

学位論文題名

超音波内視鏡ガイド下穿刺吸引生検法（EUS-FNA）における 22G 穿刺針のスタイレットの有無による組織採取の差異に関する多施設共同前向き無作為化比較研究

(A prospective randomized comparative study of endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration between with and without the needle stylet using with the 22 gauge fine-needle aspiration needle)

膵癌をはじめ深部臓器の切除不能腫瘍に対する診断・治療開発には、当該病変から十分な病理組織を生検採取することが欠かせない。本研究は、22G 穿刺針を用いた EUS-FNA (Endoscopic ultrasonography-guided fine-needle aspiration)において、スタイレットの有無による組織学的評価可能な検体採取の差異を比較検討することを目的に、5施設 110病変を対象とする多施設共同前向き無作為化比較試験として実施したものである。その結論として、検体採取率はスタイレットの有無によって影響をうけないことが明らかにされ、操作性や安全性の観点から有利性のある、スタイレット無しの手技が推奨可能であることが示された。

審査にあたり、まず副査の山下教授から対象病変の部位について、また良・悪性診断率が低率であることなどについて、副査の秋田教授より、対象臓器についてのサブ解析の可否や結果の施設間差などについて質問があった。次に副査の武富教授から所要検査時間や操作性など副次評価項目の検討の可否などについて質問があった。最後に主査の松野教授より、本研究が診療現場を変えられるのか、また施設間差の検討や今後の研究発展に際しての“正診”の評価基準設定について質問があった。申請者はこれらの質問に対して自らの研究結果や診療現場のコンセンサス、先行研究の研究成果などに基づいて概ね妥当な回答を行った。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や単位取得なども合わせ、申請者が博士（医学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。